

よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信

三四号

2013.5

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2013年5月1日
〒781-5310
高知県香南市赤岡町538
Tel.Fax 0887-57-7117
ekingura@mxi.netwave.or.jp
http://www.ekingura.com/

シリーズ 絵金百話

第三十三話 散り去った蕾

INFORMATION

☆ 須留田八幡宮神祭

絵金の芝居絵屏風を飾る須留田八幡宮の夏祭り。にぎやかな絵金祭りとは違い、街灯の明かりが消された暗闇のなか、ゆらめく蠟燭が静かに芝居絵を照らす伝統の祭りです。ゆつくり絵を御覧になりたい方におすすめ。
*屏風絵十八点のうち、五点は修復のため展示されません。

日時 七月十四日(日)、十五日(月・祝) 日没より
場所 香南市赤岡町本町商店街
駐車場 香南市商工会館・赤岡保健センター

☆ 第三十七回 土佐赤岡絵金祭り

今年も絵金祭りの季節がやってきました。年に一度、この時に限り、赤岡町本町・横町の芝居絵屏風が各所蔵者の家の軒先に並びます。酒蔵開放ほか、屋台あり、歌あり、賑やかに、鮮やかに屏風絵が勢ぞろい！是非、お越しください。
*屏風絵二十三点のうち、五点は修復のため展示されません。

日時 七月二十日(土)、二十一日(日)
場所 香南市赤岡町本町・横町商店街 屏風絵展示は
駐車場 ボートピア土佐第二駐車場ほか 午後七時から九時まで
【お問い合わせ】土佐赤岡絵金祭り実行委員会
〇八八七五四一三〇一四(香南市商工会内)

☆ 土佐絵金歌舞伎伝承会 歌舞伎公演

日時 七月二十日(土)、二十一日(日) *絵金祭りの両日
午後五時開演
演目 浄瑠璃式三番叟、蝶花形名歌島台小坂部館 ほか
場所 弁天座(香南市赤岡町)
料金 無料・全席自由
交通 ごめん・なはり線「あかおか駅」より徒歩十分
駐車場 ボートピア土佐第二駐車場ほか
【お問い合わせ】弁天座(〇八八七五七三〇六〇)

祭り期間中 絵金蔵催しのお知らせ

絵金蔵夜間開館 「第2回えくらべ展」

須留田八幡宮神祭と絵金祭りの四日間、夜間開館と「えくらべ展」を行います。

7/14(日)・15(月・祝)
7/20(土)・21(日)

◇夜間開館
18時～20時
(19時半入館締切)
◇えくらべ展
19時～21時
於 香南市赤岡町商店街周辺

絵金祭り特別展示 コーナー企画展 絵金白描展

絵金祭りに合わせ、通常公開されていない作品を中心にご紹介致します。恒例の白描展も同時開催。

◆絵金祭り特別展示 於第一展示室

7/2(火)～21(日)

◆コーナー企画展示 於第二展示室

7/2(火)～8/25(日)

◆絵金白描展 於土間ホール・映像ホール

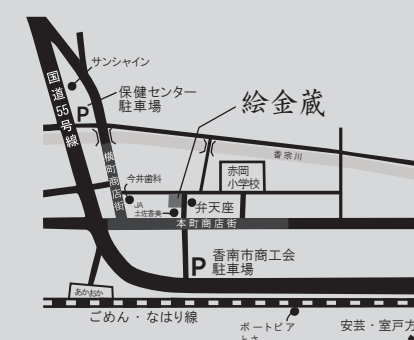
7/9(火)～28(日)
*期間中、サロン(喫茶コーナー)は休ませていただきます。

【絵金蔵】

開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時半まで)

観覧料
大人500円 高校生300円
小・中学生150円
(15名以上の団体は各50円引き)

休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合は火曜)
12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵(通称・絵金)。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

絵金蔵の三つの使命

年に一度
絵金の文化を
守るため
伝承
次の世代へ
伝えるため
縁結び
地域を超えて
世代を超えて

絵金百話

第三十三話 散り去った蕾

たまものまえあさひのたもと みちはるやかた

玉藻前曦袂 道春館

< 概要 >

『玉藻前曦袂』は寛延4年（1751）時代物の人形浄瑠璃として大阪・豊竹座にて初演されました。謡曲『殺生石』や同名の紀海音の浄瑠璃等を元に、浪岡橋平・浅田一鳥・安田蛙桂らにより脚色された作品です。文化3年（1806）には読本『絵本三国妖婦伝』の人気に刺激され、前作の大幅な改訂版が近松梅四軒・佐川藤太により書かれました。初段はインド、二段目は中国、三段目以降は日本を舞台として、三国伝来の金毛九尾の妖狐が数々の悪行を尽くす、壮大で波乱に満ちた物語*で、大変な人気を呼びました。今日では三の切「道春館」のみが独立して行われています。

舞台は清水寺、王位を狙う鳥羽院の兄・薄雲王子は右大臣の故・藤原道春の娘・桂姫を妻に望みますが、姫は陰陽師康成の弟・采女之助に恋し、聞き入れません。やがて道春館に上使・驚塚金藤次が訪れ、盗まれた宝剣を差し出すかさも無くば姫の首を討てという王子の厳命を伝えますが、桂姫と妹・初花姫は互いをかばい、自分が犠牲になろうと譲らぬため、双六の勝負で負けた方が犠牲になることとなります。勝ったのは桂姫でしたが、意外にも金藤次は桂姫の首を打ち、その真意を告白するのです。その後初花姫は玉藻前として宮中へ入内することになります。

今回ご紹介するのは香南市・浅上王子宮に伝わる、絵金の弟子による作品です。大刀を抜き今にも首を落とさんとする金藤次、それを見てあっとのけぞる桂姫、妹の初花姫は可憐に手を合わせ、几帳の奥からは采女之助が飛び出そうと構えるなど、やや硬い表現も見られますが、緊迫する場面の臨場感が表されています。

今回もどうぞお楽しみください。

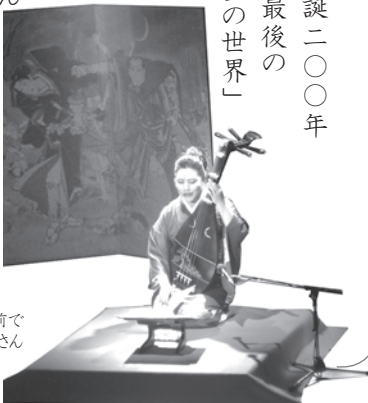
* 平安時代末期、鳥羽上皇に仕えた絶世の美女・玉藻前は実は九尾の狐が化けた姿だったという伝説による。早いものでは『神明鏡』鳥羽院の条や御伽草子の『玉藻の草子』などに見られる。子に恵まれない夫婦の手で大切に育てられ、美しく成長した娘が18歳で宮中に上り、のちに鳥羽上皇に仕え玉藻前と名乗る。その美貌と博識から鳥羽上皇に寵愛され、契りを結ぶこととなった。しかしその後、上皇は次第に病に伏せるようになり、朝廷の医師にも原因が分からなかったが、陰陽師・安倍泰成（晴明とも）により玉藻前の仕業と見抜かれる、といったストーリー。中国・殷最後の王・紂の后・妲己の正体が実は九尾狐で、太公望が鏡を投げつけるとその体が3つに飛散し、天竺の王子の后・華陽夫人として暴虐を尽くすなど三国をまたにかけた悪しき妖狐の物語として庶民に浸透した。

三

月九日、香南市絵金生誕二〇〇年
記念事業を締めくくる最後の
イベント「土佐琵琶で語る絵金の世界」

を弁天座にて開催致しました。
絵金祭りの語り部として
知られた郷土史家の故、近森
敏夫氏作詞による「絵金」
「信太妻」を、高知県出身
の土佐琵琶奏者・黒田月水さん
が笛奏者・福原徹秋さんとともに弾き語りしました。

公演レポート



芝居絵屏風の前で
語る黒田月水さん

土佐琵琶で語る

絵金の世界

絵金の人生と芝居絵屏風の物語が交錯する詩の世界が研ぎ澄まされた琵琶の伴奏と共に語られ、ほの暗い空間に時折、芝居絵屏風が浮かび上がる幻想的な光の演出がなされました。

文学・音楽・絵画が空間と一体になったひととき、芝居小屋の醍醐味を百人余りの観客が堪能しました。

納屋の隅なる古襖
二枚あわせて裏面に
泥絵で描いた芝居絵の
極彩色もあざやかに
ろうそく灯にてらされて
土蔵の闇に浮かびでる

第二回

えくらべ展

昨年で好評いただいた「えくらべ」展を、
今年は公募展として開催。現代作家に
よる屏風作品を、絵金屏風の並ぶ町の
通りに並べ、来場された方々によるビー
玉投票にて大賞を決定致します。
絵金祭りとともに、県内外の現代絵師達
による屏風絵の競演も、どうかお楽しみ
ください！

今年も、
開催します！



応募資格	・本展の趣旨に賛同する個人またはグループ（各1作品まで） ・未発表作品であること。 ・国籍・年齢不問
テーマ	自由。夏祭りの夜、絵金屏風と同様に屏風絵を町に展示。日本画、油彩、グラフィック、漫画等ジャンルは問わない。
作品サイズ	二曲一隻屏風、縦170cm×横170cm×厚2～5cm
審査方法	来場者による投票で大賞を決定。受賞作品は絵金蔵HP他にて発表、絵金蔵で一定期間展示
展示期間	〔須留田八幡宮神祭〕 平成25年7月14日（日）・15日（祝日） 〔絵金祭り〕 同年7月20日（土）・21日（日） 両日とも午後7時～9時
展示場所	高知県香南市赤岡町商店街周辺
応募期間等	申し込み：5月31日（金） 採用点数：10～20点程度
出品料	なし
応募方法	所定の申込用紙及び作品プラン・プロフィール用紙に最新の作品資料を添えて送付すること。

※その他、詳細は絵金蔵HP重要なお知らせ「えくらべ展応募要項」をご覧ください



平成25年
会期：7月14・15・20・21日
時間：19～21時
場所：香南市赤岡町商店街
主催：絵金蔵運営委員会
後援：香南市・香南市教育委員会

地芝居に生きる 玉藻前囃袂

大鹿歌舞伎 おおしかかぶき

長野県下伊那郡大鹿村に伝わる地歌舞伎。約300年の歴史を持ち、現在でも年2回の定期公演が行われている。2011年7月映画「大鹿村騒動記」の題材となった。

<http://www.vill.ooshika.nagano.jp/kakuka-karano/kyouiku/oosikakabuki/>

淡路人形座 あわじにぎょうざ

全国で興行を行い、人形浄瑠璃を伝播させた淡路島の数ある座の一つ、吉田傳次郎座の道具類を継承、定期公演を行う。国指定重要文化財。

<http://awajiningyoza.com/ningyoza/>

『玉藻前囃袂』の歌舞伎公演は、歌舞伎座や国立劇場では昭和62年を最後に上演が途絶えています。地方に伝わる地芝居のなかにはレパートリーとして現在も上演している団体がいくつかあります。また、人形浄瑠璃では国立文楽劇場にて、平成18年・19年と公演があり、今も生きている演目です。土佐では現在行われていませんが、絵金の弟子たちによる芝居絵屏風が5点ほど残り、人気のほどがうかがえる『玉藻前囃袂』。大舞台にはない、地域に伝わる伝統芝居の味わいもぜひご体感ください。

相模人形芝居下中座

さがみにぎょうしばいしもなかざ

神奈川県小田原市小竹地区に伝わる人形芝居。県内に現存する5座のうちのひとつで、国指定重要無形文化財。

<http://www.shimonaka-za.com/>

檜枝岐歌舞伎 ひのえまたかぶき

福島県南会津郡檜枝岐村に伝わる地歌舞伎。かつては南会津全域に各地区ごとの一座があった。本年8月18日、9月7日に『玉藻前囃袂道春館』の公演がある。

<http://www.oze-info.jp/kabuki/>

土佐っ子も大好き 玉藻前囃袂 道春館



打ち落とした桂姫の首をちぎった袖に包み抱きかかえる金藤次。後ろには長刀を持って襲いかかる萩の方と止めようとする初花。奥から御簾をくぐって采女之助が近づこうとしている。河田小龍筆。



高知市朝倉・西東横町蔵



香美市・個人蔵



高知市春野町・芳原下西組蔵



南国市岡豊町・別宮八幡宮蔵

上図と同場面だが、人物のポーズ、作風は異なる。



どろめ籠を肩に担ぐポーズ

み客に酒を振舞っていたとか。これが町の産業祭、第一回どろめ祭りとなり、多くの人が踊りに参加、大変な盛況ぶりだったといわれています。第三回目からは高木酒造が引き継いで主催となり、今日のメインイベント「大杯飲み干し大会」がはじまります。以後、年々参加者が増え、昭和四二年から高木酒造より町の主催となり、今日に至っています。かつて土佐では旧暦桃の節句前後、家族や親しい人たちと酒やご馳走を用意して磯や山で遊ぶ習慣がありました。赤岡でも「磯遊び」などと言いつつその時期を心待ちにしていたそうです。昭和三〇年頃までは、四月後半になると浜辺一帯が日が暮れるまで多くの人出で賑わっていました。今ではお酒の飲みつづりを競う、土佐らしい奇祭として知られるどろめ祭りですが、そこには浜に集い、疲れを癒した昔の人々の文化が息づいています。勇壮な漁船パレードや、子どもたちが受け継ぐどろめ踊り、歌舞伎の白波五人男など、海とともに生き地域で育まれた楽しみがこの祭りにはぎゅっと詰まっています。

お酒の好きな方はもちろん、そうでなくても、未体験の方、来年はぜひ、ご来場下さい。

どろめの話

どろめは河川が流れ込み、えさとなるプランクトンが多い海岸部に多く生息します。物部川の流れ込む赤岡・吉川町の海岸はどろめ漁に最適。ただ、傷みやすいため、流通が発達するまで地元の肴しか口にできない隠れた逸品でした。鮮度のよいどろめほど透き通り、ピンとした姿形をしています。新鮮なうちにポン酢や土佐めた（ニンニクの葉をすり混ぜた酢味噌）で食べると絶品の。

[例年のプログラム] 10:00～15:00

★「ちびっ子の海」魚のつかみ取り

☆漁船パレード

★地引網曳き

☆歌謡ショー

★どろめ踊り

☆白波五人男

★大杯飲み干し大会

どろめが買える

三浦屋海産
(香南市赤岡町)
0887-54-3642
*要問合せ

どろめがキ拭い!!?

おっこう屋
(香南市赤岡町)
0887-55-3468
*要問合せ



香南手拭い

どろめ祭りの酒



豊の梅「楽鷲」
高木酒造
(香南市赤岡町)
0887-55-1800

①～④

土佐の民俗写真家
田辺寿男氏が撮った
赤岡の浜の風景
高知県立歴史
民俗資料館所蔵

④えべすの化粧 香南市赤岡町港町/平成2年

日程：毎年4月最終日曜日
場所：高知県香南市赤岡町海浜
入場券：1人2,500円
(テント内の桟敷席料、酒1瓶、どろめヌタ付き、どろめ汁)
お問い合わせ：土佐赤岡どろめ祭り実行委員会
(香南市商工水産課内) TEL/0887-57-7520



どろめは絵金と並ぶ、赤岡のもう一つの代名詞。カタクチイワシやマイワシの稚魚、ちりめんじゃこになる前の生の「どろめ」は、赤岡の浜でたくさん獲れます。

そのどろめが祭りになったのは昭和三三、四年頃、当時盛んだったどろめ漁をテーマとした民謡を作り、町を売り出そうと赤岡町が公募、その時生まれた「どろめ音頭・どろめ網曳き唄」は地引網を曳く女性を漁師たちが囃したる労働歌となっていて、生きのいいどろめの姿や、網を曳くさまを振付として取り入れ、その踊りの発表会が行われました。地元の蔵元、高木酒造の三代目・高木久吉氏はこの時、個人的になじ

大杯飲み干しのルール
一、主役は五合の九割（一合は、女性のみ）
二、男性は五合の九割（一合は、女性のみ）
三、五合の九割（一合は、女性のみ）
四、五合の九割（一合は、女性のみ）
五、五合の九割（一合は、女性のみ）
六、五合の九割（一合は、女性のみ）
七、五合の九割（一合は、女性のみ）
八、五合の九割（一合は、女性のみ）
九、五合の九割（一合は、女性のみ）
十、五合の九割（一合は、女性のみ）



ヨイトコねえさんお腰
あかねの前掛や
言わいでも買いうち
どんとど

生きのいいどろめのポーズ

絵金を読む。

たまものまえあさひのたもと みちはるやかた
玉藻前曦袂 道春館

裱貼/紙本着色/112.4×116.3cm
香南市・浅上王子宫蔵

— あらすじ —

藤原道春の後室・萩の方は秘蔵の宝剣を奪われ、その探索を信頼する采女之助に依頼していた。采女之助が行方を占ったところ、左大臣・薄雲王子がかねてより横恋慕していた道春の長女・桂姫を我が物にしようと脅しの種として盗ませたものであった。

やがて道春館に薄雲王子の上使として驚塚金藤次が現れる。金藤次は宝剣を今日中に差し出すか、さもなくば桂姫の首を渡せ、と萩の方に詰め寄る。桂姫は清水の三神の社に子宝を授かるよう願をかけたその帰りに拾った子であり、その子を殺しては実の親に義理が立たない、代わりに実の娘で妹の初花姫の首を、と萩の方が申し出るが、金藤次は全く耳を貸さない。

思い余った萩の方は姉妹に双六をさせ、その命を天に任せたいと懇願し、様子を察して覚悟の白装束で現れた姉妹の勝負が始まる。互いが譲り合う果てしない勝負が続いたが、ついに妹・初花姫が負けた。ところが金藤次は刀を抜き、首を差しのべた妹の初花姫を斬ると見せて、姉・桂姫の首を落としてしまう。萩の方は悲嘆にくれて金藤次をなじり、脇から現れた采女之助は金藤次の脇腹を刺す。とどめを刺される目前、金藤次は素性を明かし、実は桂姫はやむなく捨てた我が子で、宝剣を盗んだのは侍に取り立ててもらいたい自分の欲心から、上使として来たこの家で思いがけず娘が助けられたことを知り、恩義ある方の娘の首ではなく、敢えて自分の娘を討つたと告白する。

■ 涙呑み込み背ける顔に。

いずれも譲ろうとしない姉妹を見かね、涙を吞んで「御上使へのご馳走に、日頃手練の双六をお目にかけや」声をかける萩の方。

■ 几帳の蔭に采女之助。

几帳の蔭からのぞく桂姫の恋人・采女之助。一家に降りかかった災難も自分が桂姫に想われたため、と心を痛めていました。

■ 刀すらりと金藤次。

いつまでも埒のあかぬ双六に業を煮やし、早く早くと急き立てる金藤次。勝負は見た、観念、と抜刀します。この後桂姫の首を落とすのですが、「たとへ鬼畜の身にもせよ、初花姫の御首に、何と刀が当てられう、コリヤ父ぢゃわやい。」娘の首を抱え、泣く泣くその苦しい胸の内を語りつつ、娘の後を追います。

■ 首さし伸べて覚悟の体。

「たとへ何れの胤なりともわらはが為には大事の姉様。お前は殺さぬ自らを。」と姉をかばいつづける初花姫。勝負がつくと嬉しげに「サアサア姉様がお勝ちなされた」と首を差し伸べますが…

そっくりの下絵



白描画 香南市個人蔵

絵金が描いた「玉藻前曦袂 道春館」の下絵が残されています。人物の配置、構図は右の作品とほぼ同じで、作者はこの下絵を見ていたのかもしれませんが、ただ姉妹や金藤次のポーズは少し違っていて、下絵では命を懸けた勝負であることを示す襷を立てた褥や、桂姫がサイコロの入った筒を振る様子なども細かく描かれています。

絵金蔵コーナー企画 「芝居絵屏風の裏側」 開催中！

絵金の描いた白描画の中から芝居絵屏風の下絵を中心に紹介しています。

会期：6月30日まで
*本作は展示していません。

■ 子で子にあらぬ、自らを。

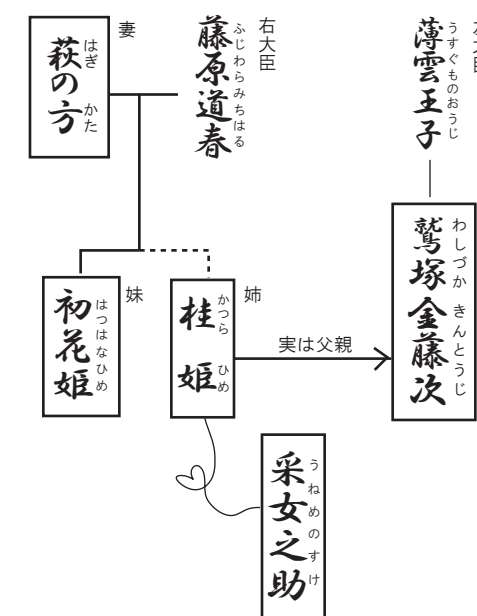
血のつながらない娘を大事に育ててくれた義理の母へ「ねぐら放れし時鳥、子で子にあらぬ自らを、この年月のご養育」という桂姫のクドキが見せ場。その後妹には「イヤなうそもじは存らへて、便り少ない母上にお宮仕えを頼むぞや。」といいきかせるのでした。

物語る小道具

～ 年練の双六 ～

現在お馴染みの絵双六ではなく、こちらは盤双六。幕末には廃れてしまったようですが、古くは貴族のたしなみで、囲碁・将棋と並び「三盤」と称されたかなり思考力を要するゲームでした。

玉藻前曦袂 道春館 主要登場人物



【参考文献】
『日本名著全集 江戸文芸之部 第28巻 歌謡音曲集』
日本名著刊行会 1929年11月
『歌舞伎事典』平凡社 1993年4月
『絵金 極彩の闇』grambooks 2012年10月

思えば筒も手も震い
しどろもどろの石づかひ、姉を構へば
妹を助けんものと双方が…